

岡山大学 MONTHLY DIGEST

vol. 118
2026.2



TOPICS

1

上山隆大内閣府本府参与らが岡山大学を訪問 —共生型連合体と最先端研究施設について意見交換—



1月26日、上山隆大内閣府本府参与、本学の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」担当サポーターである名古屋大学の藤巻朗特任教授、信州大学の杉原伸宏副学長が本学を訪問し、本学的那須保友学長をはじめとする関係者と意見交換を行いました。

まず、鹿田キャンパスにおいて、共生型連合体による地方創成への新たな取り組みに関する議論を行いました。本学が他の複数の大学とともに推進する共生型連合体について、上山内閣府参与ならではの視点からさまざまなご意見を伺い、地域社会との連携強化に向けた意見交換が行われました。

その後、津島キャンパスに移動し、最先端の研究施設を視察しました。クライオ電子顕微鏡や昨年11月から共用を開始したFIB-SEM装置といった先端機器群を視察し、植物・光エネルギー開発拠点の沈建仁拠点長らと意見交換を実施しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15051.html



TOPICS

2

岡山大学J-PEAKSシンポジウム ～地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)による大学改革の最前線を開催～

本学は、1月27日に「岡山大学J-PEAKS シンポジウムー J-PEAKSによる大学改革の最前線ー」を開催し、対面・オンライン合わせて300人以上が参加しました。

基調講演では、内閣府本府参与の上山隆氏が「大学経営フロンティアからのゲーム進化」と題して講演。続いて、那須学長が「J-PEAKSを活用した大学経営改革」と題し、岡山大学が推進する取り組みを紹介しました。パネルディスカッションでは、九州工業大学の三宅智実副学長、千葉大学の山本智久学長特別補佐、長岡技術科学大学の中山忠親特命副学長をパネリストとして迎え「社会変革を成すために、J-PEAKS大学群で共にできることは何か?」という視点で活発な議論が交わされました。

午後の取組別セッションでは「第3回岡山大学-信州大学連携シンポジウム」に加え、「共生型連合体による地方創成の新潮流ー大学間連携が拓く地域産業と人材の未来ー」、「知と技術を繋ぎ、“支えあう力”を育てる～暗黙知の共有から生まれる、共創の未来へ～」をテーマとしたワークショップや、各大学のJ-PEAKS事務局担当者を対象とした短期集中ワークショップ&意見交換会「J-PEAKS事務局未来共創ワークショップ」も開催しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15058.html



Pick up!

学生起業家の登竜門「キャンパスベンチャーグランプリ中国大会」で本学学生が最優秀賞・特別賞・奨励賞を受賞



学生起業家の登竜門として知られているキャンパスベンチャーグランプリ中国大会において、工学部工学科3年の伏谷健太郎さんと医学部保健学科4年の森本翔大さんが最優秀賞(中国経済連合会会長賞)を受賞し、1月27日に広島市で開催された表彰式で賞状を授与されました。

また、特別賞(中国四国産業人クラブ賞)には、大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年の大西一碧さんの企業の研究開発部門向けに大学の研究内容を分かりやすく紹介するサービスが選出され、奨励賞には、同じく大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年の野本大翔さん・横田陸人さんによる、桃とブドウの加工残渣を活用したアップサイクル素材のブランド「結(YUI)」が選ばれ、地域資源を生かした循環型のビジネスとして注目を集めました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15059.html



TOPICS
3

国立大学法人岡山大学の人事基本方針3 ～常勤理事の選出方法の改善について～

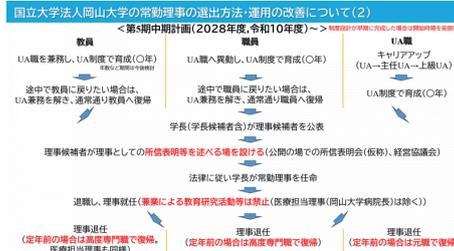
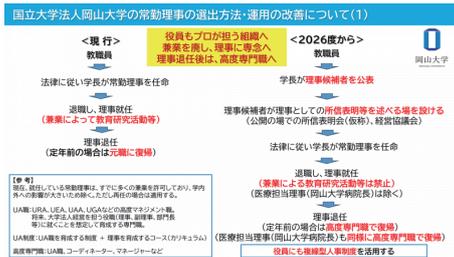
本学は、1月30日に開催した定例記者発表において「国立大学法人岡山大学人事基本方針3～常勤理事の選出方法の改善について～」を公表しました。

2026年度から新たに常勤理事に任命された者は理事業務に専念し、兼業としての教育研究等を禁止します。(岡山大学病院長たる医療担当理事は、医療管理業務などがあるため除外)また常勤理事候補者の大学法人経営に対する適性の判断や、組織構成員が常勤理事に期待することとの融和などの面においては、常勤理事候補者は理事としての所信表明を述べる場を設けます。

さらに第5期中期目標・中期計画期間がはじまる2028年度からは、教職員が常勤理事になる前に高度専門職のUA職を兼任し、UA制度によって常勤理事候補者を育成することとし、従来の教員から直接常勤理事に就任するプロセスはなくなります。また、常勤理事退任後は教員ではなく高度専門職で復職し、常勤理事の経験を生かし、例えば、部局などのマネジメントに従事します。

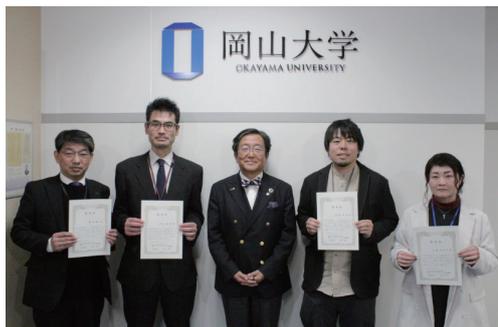
これらの改善案について、法定会議である教育研究評議会と役員会での審議を経て、12月25日に機関決定しました。今後、細かな運用の詳細を検討していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15052.html



TOPICS
4

本学職員4人を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！ ～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～



本学は、岡山大学病院研究推進課の加本昌宏課長、本学研究・イノベーション共創管理統括部研究協力課の松島和季主査、企画部国際企画課の藤川勝事務職員、病院管理課の松島真知子事務職員の4人を新たに岡山大学研究開発マネジメント人材として認定しました。

今回の4人の認定者および前回の認定者である研究・イノベーション共創管理統括部研究協力課の松本尊道主査は、URA認定機構による「認定URA」に認定されています。

本学における研究開発マネジメント人材は、研究内容に関する深い理解と洞察を有し、大学等の組織運営に関わる研究開発マネジメント全般に携わる高度専門人材と定められており、本制度は本学がJ-PEAKSを活用して行う研究大学としての改革の一環でもあります。今回の認定は、研究者と研究開発マネジメント人材等が連携して研究開発に挑戦する環境の醸成に資する重要な取り組みであり、今後も認定者を増やしていく予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15066.html



PRESS
RELEASE

人工衛星の帯電を「光」で検知するシリコンフォトニクスセンサを開発 ～宇宙開発を悩ませてきた静電気トラブルに新方式で挑む～

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域(工)の高橋和教授(本研究は大阪公立大学在籍時より開始)らの研究グループは、シリコンフォトニクスを用いた「人工衛星用の静電気センサ」を開発しました。

近年、人工衛星を活用した宇宙ビジネスが拡大しています。小型衛星ネットワーク、民間宇宙ステーション、月面基地構築など、革新的な宇宙ミッションが提案される中、衛星には新たな機能の追加が求められる一方、人工衛星の故障率低減が宇宙デブリの増加を防ぐ観点などから重要となっています。

宇宙空間はプラズマと放射線が存在するため人工衛星は帯電しやすい環境にさらされています。この帯電に起因する静電気トラブルは衛星の主要な故障要因とされていますが、利用しやすいセンサがないことが衛星事業者を悩ませてきました。

センシング部に「光技術」を用いる一方で、「電子回路」を用いないため、放射線や静電気放電に対する高い耐性と、低消費電力動作が期待できます。



人工衛星と宇宙空間の間の電位差

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1503.html

